

制作概要

イオニア式キトンはギリシャのクラシック期（紀元前5～4世紀）の代表的な服装の一つである。キトン chiton はもともとリネンのチュニックという意味をもつ東方系の服装であったが、紀元前5世紀頃からイオニア人の男女にもっぱら着用されるようになり、この名称が生まれた。広幅のリネンを大きな円筒にして中に体を入れ、上端を何か所も前後で止め、さらに上から細紐をボディにしめて、細かなドレープを表面に構成する。ピン止めをやめて肩を縫い合わせることもあり、縫い込んで袖をつけた例もある。繊細で優雅な美しさを感じられる服装である。

作品は2011年9月23日NHK大阪ホール第79回NDK日本デザイン文化協会ファッションショー「Reach for The Future ～未来へ届け 復活の扉～」の第4部 Recommended Collection 第3景フォーマルウェア部門 Moonlight Paradise ～楽園の扉～に出品したイブニングドレスである。

黒を基調にした夜会服のシリーズとして、制作した研究課題作品である。コンセプトは黒とシルバーのコントラストを生かして、「星の雫」が降って来る様を古代ギリシャのキトンをデザインソースにしてデザインした。素材にはベルベットのタイトなロングドレスのスカート部分に、シワオーガンジー、スパンチュールなどを使用した三角マチをフレア一たっふりと入れ、袖にはスパンチュールで扇状に広がりを出し、肩部分は前後の袖を5か所縫い止めた。古代ギリシャのキトンに見られる繊細で優雅な美しさと、素材のもつ華やかさを加味した大人のイブニングドレスである。

橋 喬子

「星の雫」
イブニングドレス
NHK 大阪ホール



ディテール：フロント部分
ディテール：スカート部分
ディテール：サイド全身

仮縫い点検：フロント全身
仮縫い点検：フロント部分
仮縫い点検：バック部分

パターンメイキング

- 1) シーチングでビスチェドレスをモデルサイズに合わせてドレーピングでパターンを制作仮縫いした。スカートはロングのタイトなシルエットに前後、左右の4箇所深くスリットを入れ、そこに三角襷をボリュームを持たせてゆったりと入れた。
- 2) 肩から袖はほぼ半円状に円弧を描いた。

仮縫い点検

- 1) 前身頃のウエストダーツを左右0.5cm 摘み、サイズを調節した。
- 2) 衿明きを横長に浅くした。
- 3) マント風の扇型の袖丈を10cm 短くカットした。
- 4) スカートの挟んだ三角襷の分量をボリュームを出すよう4枚重ねに修正した。

縫製のポイント

- 1) ヒップラインから前上部までのファスナー明きとした。
- 2) ベルベットの上部から肩にかけてブレードでクロスさせた。
- 3) 扇型の袖は肩でキトン風に5か所縫い止めた。
- 4) ロングタイトスカートの前後左右4か所に入れた三角マチはシワオーガンジー、スパンチュール、スパークオーガンジー、ナイロンタフタを重ね、ボリュームのあるフレアーラインを作った。

使用素材

ベルベット、シワオーガンジー、スパンチュール、スパークオーガンジー、ナイロンタフタ

アクセサリ

イヤリング

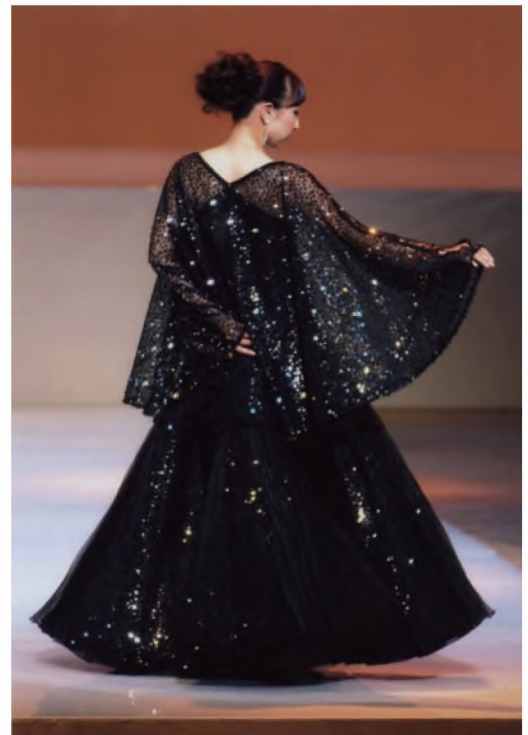


デザイン参考文献

「イオニア式キトン」
J・アンダーソン・ブラック著
「ファッションの歴史」
株) PARCO 出版局 1985年



舞台本番風景 A



舞台本番風景 B



橘 喬子
イブニングドレス「星の雫」
2011年9月23日
第79回NDKファッションショー
NHK大阪ホール